

令和5年度 第3回 豊田市こどものスポーツ・文化活動等に関する協議会 会議録

日 時	令和6年3月14日(木) 午後3時30分～5時
場 所	教育委員会会議室 (東庁舎6階)
参加者	<p>【会 長】中野 貴博 中京大学 スポーツ科学部 教授</p> <p>【副会長】藤田 雅也 静岡県立大学短期大学部こども学科(美術教育研究室) 教授</p> <p>【委 員】粕谷 浩二 (公財)豊田市スポーツ協会 常務理事</p> <p>【委 員】藤本 聡 (公財)豊田市文化振興財団 専務理事</p> <p>【委 員】加藤 矢舟 豊田文化団体協議会 会長</p> <p>【委 員】岡山 尚司 愛知県中小学校体育連盟豊田支所 支所長</p> <p>【委 員】加藤 秀昭 豊田市小中学校長会 副会長</p> <p>【委 員】八木 健次 豊田市 生涯活躍部長</p> <p>【委 員】三浦 法雄 豊田市教育委員会 教育部長</p> <p>【事務局】生涯活躍部市民活躍室 森室長</p> <p>生涯活躍部文化振興課 相田課長、太田副課長、大西担当長、志村主査</p> <p>生涯活躍部スポーツ振興課 都築課長、阿垣副課長、藤村担当長、原田主査、 宇佐美主査、榊原主事</p> <p>教育部 中垣副部長</p> <p>教育部学校教育課 小山課長、赤川副課長、若月専門員、富安指導主事</p> <p>【傍聴人】1人</p>
	<p>1 会長挨拶</p> <p>次年度以降、具体的に動いていく必要があるため、是非活発な議論をよろしくお願 いします。</p> <p>2 事務局からの議題の説明・議題に対する委員からの意見等</p> <p>(1) 豊田市部活動地域移行プラン骨子(案)の変更について</p> <p>【事務局】・資料に基づき説明</p> <p>【委 員】・対象者の拡大の部分で、小学生の拡大について、理由も含めもう少し詳し く教えてもらいたい。</p> <p>・参加費が無料になるということだが、公費を使うのか。それならばどれく らいになるのか。</p> <p>【事務局】・小学生を含めることで、中学生の活動にスムーズに移行できるようにした いと考えている。</p> <p>・1年あたり4億円程度の公費負担を想定している。主な経費としては、指 導者の謝金となる。</p> <p>【会 長】・個人的には活動対象に小学生を含めていくことは大賛成。現在は、中学生 の運動習慣等も二極化がはっきりしてきているので、小学校から選択肢を 増やすことで、生涯を通じた運動習慣の形成にも寄与できると思う。</p>

【委員】・統一した指導ができるよう、研修会ができるとうい。具体的にどういことを考えているか。

【事務局】・指導の内容はこれから考えていく。トヨタ自動車、大学等のパートナーと一緒に考えていきたい。

【会長】・指導者には教育的配慮という視点が必要になる。安全面の確保やこどもの発達段階に応じた指導ができるよう研修内容を考えていく必要がある。こういった内容をベースに、種目に応じた実技的な研修を検討していく形になるのではないか。

【委員】・小学生を含めていくことについて、スポーツ少年団とのすみ分けをどのように考えていくか。

- ・運営主体の具体化について、現時点でどのくらいのボリュームになると考えているか。スポーツ協会としても協力していきたいが、どれくらいの人数が必要になると想定しているか。

【事務局】・人数については検討中である。スポーツ団体や文化芸術団体との連携を強化していくためにも、スポーツ協会や文化振興財団のスタッフにご協力いただきたい。

【委員】・スポーツ協会では、プロパー職員、再任用職員で12名いる。スポーツ協会から人材を派遣した分の補充や役割が増えた分の対応をお願いしたい。

【委員】・小学生の参加は素晴らしいことだが、登下校の対応が最大の課題。安全面など具体的なことを考えると心配である。

- ・地域学校共働本部が実施主体になっているが、現在、部活動については素人の方で運営されている。予算をとって、必要な人材を確保してほしい。ただ、そういった人材がいるだろうか。

- ・竜神中学区、高橋中学区では、小学校で地域学校共働本部が部活動のような活動を行っている。そのノウハウをヒアリングして、参考にしてもらいたい。

【会長】・3区分の役割をしっかりとて、危惧される部分をなくしていく形をとていけるとよい。

【事務局】・公費負担の補足説明として、現在、中学校部活動では、大会登録費や材料費等を毎月の保護者からの集金（部活動費、PTA会費）等で賄っているが、これを含めて公費で対応していくよう考えている。学校の規模にもよるが、こうした費用は1校あたり平均80万円程度。この費用も先に述べた4億円程度の公費負担の中に含まれる。

【委員】・資料2の「3 指導者研修プログラムの作成」中に文化芸術団体との連携・協力に関する記載があるが、具体的にはどこの団体か。

【事務局】・名古屋フィルハーモニー交響楽団。

【委員】・資料にも明示されているとわかりやすい。

- 【副会長】・丁寧に資料を纏めていただき、事務局には感謝している。小学生を対象者として含めていくことも良いと思う。
- ・3区分を設定してあるが、それぞれに貢献度や負担感が異なると思われる。区分ごとの具体的な役割について教えてほしい。
 - ・「とよ活」の名称について。略称を用いず、「とよた地域クラブ活動」とした方がよいのではないか。活動が浸透し、略称が必要となるまで、当面は正式名称で進めていった方がわかりやすい。再度、検討してもらいたい。
- 【事務局】・区分の具体的な役割については、検討中。
- ・名称についても検討していきたい。また、愛称の募集について検討しており、市全体でなく、地域ごとの愛称を募集することについても検討している。
- 【委員】・事務局の思いとしては「とよ活」を使用していきたいということか。
- 【事務局】・事務局としてはそういう思いもある。
- 【委員】・説明する上では、略さない方が伝わりやすい。慎重に検討していただきたい。
- 【委員】・3区分の役割について、どこまで任せることを想定しているか。見守りサポーターは、行き帰りの見守りについても想定しているのか。技術指導者は、その日のメニューを考えるとということか。役割を明確にしておかないと、現場でトラブルが起きる可能性がある。
- 【委員】・現在の部活動指導者は、技術的な指導ができる人が中心。こういった人たちは、勤め人が多く、平日の指導は難しいと考える。平日は地域の人や保護者が見守る中での活動が中心になるのではないか。
- 【会長】・技術指導者は専門的な知識や技能が必要になる。一方で、指導補助者は専門的な知識や技能がなくても参画できるかもしれない。
- 【事務局】・自信をもって指導できる人を技術指導者とすることを考えている。そして、指導補助者については、活動と一緒に参加していく人、ある程度の知識を有し、安全面の管理や、指導ができる人を想定している。
- 【会長】・専門的な知識や技能をこども達に還元していくことがすべてだとは思っていない。それによってやりにくくなることもある。補助の人が入ることで、新しく始める1年生に噛み砕いて説明してもらえることもある。区分によって研修の内容を変えることについても考える必要がある。
- 【委員】・これまで教員が担っていた監督的な立場を、技術指導者に担ってもらうことになるのではないか。地域によって実情も異なるため、あまり厳格に役割を規定せず、参画してくれた人たちの中で柔軟に役割を決めていけるような仕組みづくりも大切。
- 【副会長】・この活動は、技術的な指導も大切だが、教育的な側面も考慮する必要があると思う。教育的な部分があることで、地域が担う役割も出てくると思う。

- ・例えば、年に1～2回技術指導者が一堂に会し、情報交換することで、どのように教育的な側面を担保しているのかといった共有が可能となる。研修をやりっぱなしにせず、過剰な指導にならないようにするためにも、簡単な日報を残し、報告するとよい。指導者については、任用期間がいつまでかを示し、市が指導者を認定していくような仕組みにしていくとよい。また、保護者・子どもたちからも評価を受けるようにするとよい。

(2) 令和6年度から始める主な取組について

【事務局】・資料に基づき説明

【委員】・学校では回覧板を使うなどして地域指導者を募集してきた。人材バンクを立ち上げ、マッチングをしてほしい。現場では、人を集める難しさを感じている。

【委員】・平日に誰がやれるのかシミュレーションすると、難しい問題であると感じている。

【委員】・運営主体については、完全行政型がいい。トヨタ自動車、大学が人も出してもらえるとよい。トヨタ自動車にはスポーツ経験者がいる。業務の一環で出してもらえると社会貢献にもなり、win-winの関係となるのではないかと。

【会長】・上手に説明したら、1,600円の謝礼で参画する大学生はたくさんいると思う。大学生については、個別に人材バンクに応募してもらうよりも、大学で取りまとめた方が安定的に集まると思う。

- ・名古屋の小学校のケースでは、コロナもあったと思うが、人材バンクで募集したところ、想定より多く人材が集まった。学生が4分の1程度で、文化系の指導を希望する主婦（主夫）も多くいた。

- ・任用期間をどれくらいの年数で設定するかで人材バンクに応募してくる層も変わってくると思う。そういった意味で、任用期間や役割等をしっかりと整理した方がよい。

【委員】・現在、中京大学の学生にも地域指導者として参画してもらっているが、大学生は在学中のみとなってしまうので、責任をもってもらう一番上の立場は、地域に根付いた人に長くやってもらえるとよい。

【会長】・大学生は後輩に引き継いでいくこともできる。

- ・心の発達を含めた発達の段階を理解できるような研修を実施することが必要になる。発達を理解して関わると、子どもたちは楽しく活動に参加できる。こういった教育的な配慮は絶対に欠かせないと思う。

【副会長】・技術指導者は大学生も含まれるのか。補助者ならわかる。現状の地域指導者の確保状況は8割だが、その中で技術指導者の役割を担う可能性がある方はどれくらいいるのか。

【事務局】・現状では、大学生も技術指導者として指導を行っている。現在は区分がわかれてはいない。

【委員】・指導の中心を大学生が行っているということによいか。

【事務局】・試行の段階なので、教員と一緒にのこともあるが、少しずつ任せているところもある。

【会長】・やりっぱなしの研修にならないよう、確認することが必要になる。情報交換の場を設けるなど、まめにやってほしい。質を担保することが一番大変になる。

【委員】・文化部の部活動をどう選択していくのかも地域に委ねるのか。広がりがあるのか、現状維持程度なのか、今の方向性を教えてほしい。

【事務局】・事務局としては広がるよと考えており、今あるものだけに限定されるとは考えていない。ただ、生徒数が減っているという現状もあるため、学校運営協議会等と相談しながら検討していきたい。

【委員】・文化的な活動については、書道教室や地域の将棋教室に通っている子もいる。

【委員】・どこかの学校や交流館等で合同開催する方法でもよいのではないか。新しいニーズがあれば、指導者を派遣してはどうか。

【委員】・文化部に限らず、マイナーなスポーツ種目は合同開催となってもよいのではないか。市がそのあたりをコーディネートできるとよい。

【会長】・部活動の調査を行うと「やりたいものがない」という意見が一定数ある。これは、既存の部活動ではこどもの多様なニーズに応えられていないことが原因の1つとして考えられる。多様なニーズに少しでも応えていけるよう、少人数の種目等についても開催できるよう運営主体で調整していくことが理想となる。

【会長】・全体を通して、意見はないか。

【委員】・指導者の区分に関する意見については、これから吟味していきたい。役割ごとの研修や評価が必要となることなど、大変参考になった。報酬についてご意見があれば伺いたい。

【会長】・指導補助者について、愛知県の最低賃金より補助者が下回ることが気になった。

【事務局】・これは賃金ではなく、有償ボランティアとしてのものである。

【委員】・地域指導者の謝礼が現状の時給 1,830 円から 1,600 円に下がるのが気になった。既存の地域指導者の中で、時給が下がることで辞退する人が出てこないか。

【事務局】・現在、地域指導者に対して謝金の変更についての説明を行っているところである。